

# 北魏時代の山東石像銘史料の探索と整理

龍谷大学 佐藤智水

現在の山東省に分布する南北朝時代の石仏は、多くの石窟や摩崖造像を含め、多種多様で膨大な量に達すると思われる。中国仏教の展開の視点からみると、儒家思想の拠点（曲阜・孔廟）をかかえ、また神仙道や泰山信仰などの民間信仰の豊富な山東地方に、どのようにして仏教が展開したのかという課題は、地域史研究と相俟って極めて興味深いテーマである。とりわけ「立誓願文」の慧思の記事や、安道一教団の手になる刻経事業、そして伝統的様式とは異なる薄衣を纏ういわゆる「青州仏像」の出現は、南北朝後期の山東仏教の特性を示すものとして、仏教学・中国史学・美術史学の観点から、従来別々に注目を集めてきた。

本稿では、それらを含む総合的考察の第一段階として、北魏時代に焦点をしばって、特に石像に刻まれた紀年を有する造像記の収集とその内容の基本的整理を行なった。巻末に「北魏時代の山東石仏 紀年造像記一覧」を表示した。銘文数点については、その移録を巻末に添付した（逆頁）。北魏の金銅像については、別稿で銘記内容を整理し解析した。<sup>(1)</sup>

南北朝時代の山東の造像がきわめて盛んだったことは周知のことだが、北魏時代の石像はさして多くなく、そのうち紀年を有する石像銘は、現時点では33点に絞られる。しかも、初出は神龜元年（518）と極めて遅く、この点は、すでに岡田健氏の指摘がある。<sup>(2)</sup>

次に、収集した33例の紀年銘造像記について、簡潔に整理しておく。

- I 数量の問題。 神龜元年～北魏末まで17年間に33例とは、かなり少ないが、銘記はあっても紀年を欠くものや、銘を刻まない作例も多数あり、ゆくゆくはこれらを含めた考察の必要がある。
- II 時期的遍在の問題。 太和～熙平の紀年銘を有する金銅像の作例が合わせて14点、惠民県や博興県の龍華寺址から出土しており、熙平年間以前になぜ石像が造られなかったかという疑問が湧く。視点を変えれば、孝明帝の神龜年間以降なぜ石像造営が盛行したのか、という問題と連動する。
- III 地域的遍在の問題。 33点を分析すると、青州の中心部23点、齊州6点、その他2点、不明2点であり、青州の中心部が圧倒的に多い。山東石像盛行の中心地は、青州臨淄付近とみてよい。次に、齊州6点のうち3点は州都歴城県（現・済南市）にある黄石崖石窟の外壁に存する（山東における北魏の仏教石窟は黄石崖のみ）。その他2点の1つは、表のNo.6 王珖之等法義造像で、光州當利県の集団造像である。出土も近くの平度県と伝えられ、北魏造像記の北限と言える。半島の突端地域には石像の作例をみない。もう1つNo.22 劉平周等造像は、当時の徐州の南部郟城に集結していた武官の集団によるもので、山東北魏造像記の南限である。

IV 造像主の問題。 造像主は、個人や家族単位のものゝ集団による造像に分けられる。特徴的なものは集団造像で、法義と自称するもの 11 点 (No.2・6・7・8・12・13・14・16・17・19・31)、邑義 2 点 (No.15・21)、その他 4 点 (No.5・9・11・22)、計 17 点で全体の半分を数える。集団造像を法義と自称するのは、山東以外ではあまり見られない。ただ、邑義と称するものもあり、また北魏全域で多くみられる「合邑」がないのは興味深い。

V 造像主の身分。 個人や家族単位の造像記を見ると、あきらかに豪族や名族と思われる作例が目につく。表No.1 は在地樂安の名家孫氏と清河房氏出身の夫人、No.10 は襄威將軍柏仁令の官職を有する曹氏、No.29 は親族に將軍号や太守を帯びる李氏一族と夫人は在地有力者の蔣氏、No.30 は東清河崔氏を夫とする在地名家賈氏の妻。

これは、集団造像においても顕著である。No.2 は河北の清河から齊州に移住した東清河崔氏と当地の有力者賀氏などの集団、No.5 は清河から青州・齊州に移住した張氏と傅氏の集団、No.6 は光州の在地有力者王氏を軸とする集団、No.11 は現役の官職を有する名家賈氏一族とその夫人張氏、No.22 は現役武官たちによる造像事業である。以上のように、山東の石像銘記から、移住し定着していた名家と在地の有力者との結縁が読み取れる。

VI 移住民の問題。 前項で挙げたNo.2・5・30 にみえるように、永嘉の乱や後燕滅亡時などに河北から山東に逃れてきた移住民の積極的参加がうかがわれる。また、No.24 は揚州丹陽郡から齊都に移住した陳氏の単独石像、No.25 は長安から移った王僧勸が黄石崖の外壁に造像供養をしたことを刻んでいる。山東仏教造像が時間差はあるものの、移住してきた人士によってその一端が担われたことを示している。

VII 女性の積極的参加の問題。 No.5 は移住した名族清河張氏の出身の女性(張勝男)が、同じく移住した名族の清河傅氏に嫁ぎ、移住先の臨淄で信望を得ながら、地縁や血縁の縁ある他のご婦人たちを勧誘し、夫たちをも巻き込んで取り組んだ造像事業である。稀有の史料と言える。<sup>(3)</sup> No.7 は、女性たち主体で行なった黄石崖の造像である。

また、No.11 は夫の賈智淵が任地に赴いているときに、夫人の張氏が香火同邑の仲間(多くは女性)と共に行なった造像であり、No.30 は婦人の賈氏が夫崔和の赴任中に自らの信仰を吐露して造像供養を行なっている。青州臨淄における家庭夫人の地位の一端を垣間見る。No.21 は比丘尼 12 人(比丘 0)が参加する大掛かりな邑義集団による造像で、刻まれた供養者名 130 余人のうち約 7 割が女性で、しかもその名の配列が男女混合という、礼制的観念では理解を越える集団である。この時期の山東における奉仏事業への女性の積極的関与は際立っており、この女性参加の実態は、ジェンダーの問題にとどまらず、そのような事態を可能にした経済的成長という地域史的課題に繋がっていく。

VIII 信仰内容の問題。 ここでは、本尊の尊格を確認しておく。銘記によると「釋迦像」2、「弥勒像」11で、そのほか「尊像」3、「佛像」1、「靈像」1、「如来石像」1、「天宮像?」1、「石像」4 と刻まれている。注目すべきは、弥勒が突出して多いこと、及び他の地域でみられる「観音像」「多寶像」「無量壽像」「盧舎那像」が皆無ということである。

以上、北魏の山東地方の石像をとりまく環境を、いくつかの切り口にしばって整理を試みた。ただ、山東の仏教造像については、尊像の多様な様式が難問として横たわっている。

像の大小や様式等の相違が、銘記内容といかなる相関関係があるのか、その検討が欠かされていない。今後は、無銘の尊像も視野に入れると共に、仏教を推進した側の僧尼や山東地方の豪族・名族の動向について考察を進めていく所存である。

## 注

- (1) 拙稿「中国初期金銅仏の銘にみえる祈願— 仏に遇う —」科研報告書『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』（研究代表者：宮治昭。2014）。金銅像の分布や銘文内容は石像の展開とは位相を異にしていることもあり、本稿では、折に触れて言及する。
- (2) 岡田健「山東歴城黄石崖造像」（『美術研究』366、1997）。因みに、筆者がこれまで山東制作とみてきた「太和七年、魏光州靈山寺塔下銘」の銘記は、偽刻と判断し削除した（倉本尚徳氏の示唆による）。
- (3) 拙稿「中国における初期の『邑義』について（下）—北魏における女性の集団造像—」（『仏教文化研究所紀要』51号、2012）

表に引用する文献	略称と原典
Siren	Osvard Siren “CHINESE SCULPTURE” 1925
『魯迅』	『魯迅輯校石刻手稿』造像（北京魯迅博物館 1986）
『石佛選粹』	李静杰編著『石佛選粹』（中国世界語出版社 1995）
『臨响造像』	『臨响佛教造像藝術』（科学出版社 2010）[响→月+句]
『碑刻造像』	山東文物叢書⑩『碑刻造像』（山東友誼出版社 2002）
『李森著』	李森『青州龍興寺歴史与窖藏佛教造像研究』（山東大学出版社 2012）
『山東省石仏展』	山口県立萩美術館『山東省石仏展』展覽図録（2008）
八瓊室	陸増祥『八瓊室金石補正』
陶斎蔵	端方『陶斎蔵石記』
大村	大村西崖著『支那美術史彫塑篇』（佛書刊行会図像部 1917）
新松原	松原三郎『中国仏教彫刻史論』（吉川弘文館 1995）
北図拓	『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本滙編』（中州古籍出版社 1989）
台北目	中央研究院歴史語言研究所、佛教拓片研讀小組編 『北魏紀年佛教拓本目錄』（2002）
碑刻校注	毛遠明校注『漢魏六朝碑刻校注』全10冊（2008）
岡田健「黄石崖」	岡田健「山東歴城黄石崖造像」（『美術研究』366号、1997）
拙稿「女性集団」	佐藤智水「中国における初期の『邑義』について（下） —北魏における女性の集団造像—」（『仏教文化研究所紀要』 51号、2012）
京大人文研拓本	京都大学人文科学研究所所蔵拓本、
淑徳大学拓本	淑徳大学書道文化研究所所蔵拓本

## 北魏時代の山東石仏 紀年造像記一覧

★→奉為皇帝 ☆→爲四恩三有：国王：家国；願皇祚永隆

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 1. 像主孫寶愷<br>清信女佛弟子房令妃<br>山東省博物館藏<br>神龜元年3月20日(518)  | 尊像<br>(一光三尊拱手仏立像)<br>(通高160×幅98cm)            | 青州高陽郡安次県人<br>(山東樂安北翠柳庄出土)<br>孫寶愷→青州樂安の孫氏?   | 「仰資父母。居家眷属、現世安吉<br>・ ・ ・ 一切群生、同歸彼岸」<br>妻房令妃→清河の房氏?    | Siren PL.159<br>北図拓IV-52<br>台北目No.120   |
| 2. 崔勲等法義兄弟<br>法義主賀神達<br>故宮博物院藏<br>神龜2年9月11日(519)    | 石像・二侍菩薩<br>(残台座のみ)<br>(台座幅80×高38cm)           | 齊州東清河郡兪県人<br>崔鴻・崔鸞・崔鵬(有官者)<br>東清河崔光の疏族とその法義構成員25人<br>像主崔勲は錢九千。法義兄弟廿五人は「各錢一百、裁佛金色」 | 「上為皇帝陛下★、三公主司<br>後為居家眷属、咸同斯福」                         | 『石佛選粹』64図<br>北図拓IV-71<br>碑刻校注V-No.0560  |
| 3. 宋□(□=貳?)<br>臨朐県博物館藏<br>正光元年11月8日(520)            | 造象<br>(一光三尊拱手仏立像)<br>(通高51×幅31cm)             | (青州)<br>(臨朐県明道寺旧址出土)<br>青石質   | 「願生西方妙樂国土、值□□□<br>…無諸□惡、十方□生…」                        | 『文物』2002-9<br>『碑刻造像』p.385<br>『臨朐造像』No.1 |
| 4. 佛子伊□<br>正光2年6月5日(521)                            | 佛像<br>(一尊拱手仏立像)<br>(通高59×幅15cm)               | (青州)<br>(青島市収集)柱石状<br>青石質   | 「上為皇帝★<br>下為父母兄弟姊妹二十三人、<br>時々供養、子々孫々、咸同斯福」            | 『文物』1985-1                              |
| 5. 清信女張勝男等<br>(女性主導邑義)<br>齊国歴史博物館藏<br>正光3年正月6日(522) | 釋迦牟尼石像<br>(一尊拱手仏立像)<br>(通高240×75cm)<br>女性唯那8人 | 青州齊郡臨淄県<br>(臨淄鎮出土)<br>柱石状<br>東清河の張氏と傅氏の連携   | 「清信士女張勝男、率佰六十餘人…<br>奉為師僧父母兄弟及一切衆生、<br>仰資亡者…託生靈津、餐承玄旨」 | 拙稿「女性集團」                                |

- |  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| 6. 王珎之等法義<br>維那主蘇胡・張碩…<br>(所蔵不明)<br>正光3年正月26日(522)     | (三尊举手仏坐像)<br>(拓本 112×107 cm)<br>供養者 100 余人    | 光州長廣郡當利県<br>(山東平度縣出土)<br>柱石状? 比丘尼 21 人名。比丘 4 人。台北目No.149<br>王珎之は板官(當利本縣令) 俗人はほとんど男性:約 90 人。 | 「(願目記載なし)」  | 北図拓IV-127。<br>大村 p. 236 : 図 541。            |
| 7. 劉愛女等<br>法義兄弟姉妹等<br>(黄石崖石窟)<br>正光4年7月29日(523)        | 石窟像廿四軀<br>(方形龕:四尊像)<br>(龕高 30 cm)             | (黄石崖石窟の小龕)(齊州)<br>(山東済南市)<br>維那主 4 人、供養者 25 人=女性。<br>近接して「高伏香造釋迦像記」あり                       | 「(願目記載なし)」<br>「釋伏宋同正鋤」(僧の名?)                                      | 拙稿「女性集団」<br>岡田健「黄石崖」                        |
| 8. 成買寺主道充等<br>法義兄弟姉妹<br>(所在不詳)<br>正光5年8月11日(524)       | 弥勒尊像<br>(形相不明)<br>(拓本高 39×92 cm)<br>(僧侶指導の法義) | 青州高陽郡新城県<br>(山東臨淄大夫店摩崖?)<br>道充・施福寺慧興ほか比丘 13 人。男子俗人 71 人(うち成公氏 23)                           | 「率化彩邑道俗法義兄弟姉妹<br>一百人一切羣生、咸同福慶」                                    | 北図拓IV-171<br>台北目No.169                      |
| 9. 慶福寺主. 程通等<br>兄弟姉妹二百九十五人<br>(所在不詳)<br>正光5年8月11日(524) | 弥勒尊像<br>(三尊举手仏立像)<br>(高さ・幅不明)                 | 青州高陽郡新城県<br>(故樂安地) 柱石状<br>成買寺道充造像記と同名比丘 2 人(道充・慧静)  | 「上爲國王☆、下爲高老父母、下<br>有孝婦□□九十五人、上有龍頂<br>之壮奇、一切羣生、咸同福慶」<br>「巫門、卜門、石匠」 | 京大人文研拓本                                     |
| 10 柏仁令曹望愔<br>襄威將軍<br>ペンシルヴァニア大博蔵<br>正光6年3月20日(525)     | 弥勒下生石像<br>(残台座:形相不明)<br>(拓本高 27×66 cm)        | 齊州魏郡魏県<br>(旧在. 山東臨淄縣)<br>(台座三面に夫妻礼仏線刻)  | 「仰爲家國☆己身眷属、永断苦因<br>常與佛會、七世先亡、神昇淨境<br>親表内外齊沐法澤、一切等類…」              | 『魯迅』 p. 133<br>北図拓IV-181<br>Siren PL. 150 B |
| 11 張寶珠等<br>香火同邑  | 釋迦牟尼佛<br>(三尊举手仏立像)                            | (青州)<br>(旧在益都古廟)(青州)  | 「為七世父母歴劫諸師、兄弟姉妹<br>所親…香火同邑常與佛會…願                                  | 新松原図 166 B<br>「文物」1961-12                   |

- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 山東省博物館藏<br>正光6年4月19日(525)<br>夫=賈智淵 →         | (通高 229×135 cm)<br>背面に清信女 20 余人。益都賈氏、妻清河張氏？<br>□□將軍府幕僚、赴任中。同族=賈智伯(本郡功曹)、 | 弟子等、生々世々、值佛聞法、<br>永離衆苦、乃至成佛…」<br>賈智興(…大尉祭酒)、賈智琳(…二郡太守)                           | 北図拓IV-182  |
| 12 張買等法義十七人<br>(黄石崖石窟?)<br>正光6年5月20日(525)    | 石像(形相不明)<br>(拓本高 65×幅 35 cm)   | 青州齊郡臨淄県人<br>「(願目記載なし)」<br>「清信士佛弟子」以下題名 17 人(そのうち張氏 10 人最多)                       | 京大人文研拓本⑨<br>⑩備考：歴城黄石崖  |
| 13 王世和等法義兄弟<br><br>博興縣文管所藏<br>正光6年6月15日(525) | 尊像(柱石状)<br>(一尊举手仏立像)<br>(残高 240×70×80 cm)                                | 青州樂安郡般県<br>(博興県店子鎮般若寺遺址)<br><br>王氏多数。尼道姿あり                                       | 「上為皇帝陛下★百官州牧、又為<br>過往将来現在父母師僧居家眷属、<br>復為法界衆生蠕動之類□□福」<br>『文物』1958-4<br>『碑刻造像』p. 387                   |
| 14 鹿登等略撰法義<br>《残石》<br>孝昌2年3月27日(526)         | 石像(断裂)<br>(形相不明)   | (益都県北馬皆庄出)<br>(拓本高 82×幅 114 cm)  | (祈願部分…磨滅甚だし)<br>供養者線刻、鹿氏多し<br>北図拓V-21<br>台北目No.203   |
| 15 帥僧達等邑義卅人<br>《残石》<br>孝昌2年6月2日(526)         | 弥勒尊像<br>(断裂：形相不明)<br>(拓本高 49×44 cm)                                      | 青州齊郡臨淄県人<br>比丘道就。金色主范□ (帥 3・范 2・張 8 人)   | 「上為皇帝陛下★ 師僧父母…<br>逮及己身、居家眷属、普為<br>一切无邊衆生 願合家眷属、<br>常聞正法、值遇諸佛」<br>『魯迅』p. 147<br>北図拓IV-31<br>大村 p. 238 |
| 16 帝主元氏法義卅五人<br>(黄石崖石窟)<br>孝昌2年9月8日(526)     | 弥勒像<br>(仏坐像。未完成龕)<br>(龕高 56×37 cm)                                       | (黄石崖の小龕)(齊州)<br>(山東済南市)<br>都維那比丘 1 ; 都維那 3 ; 比丘 2 + 男性法義 11<br>前半(男性) / 後半(女性) → | 「為四恩三有☆法界衆生、願值弥勒」<br>『魯迅』p. 143<br>岡田健「黄石崖」<br>台北目No.202   |

- 17 法義六十餘人 彌勒像 青州樂陵郡陽信県 「為皇帝陛下★七世父母、  
像主王敬賓など王氏 (残台座：形相不明) (博興県崇徳村龍華寺出土) 一切衆生、普同其願」 筆者調査 (2010)  
博興県文管所蔵 「寺主王徳寶：維那2人」  
孝昌2年 (526) 記名100余 (王氏56・比丘1・比丘尼2・女人8)
- 18 比丘道休 彌勒石像 (青州) 「正月二日奉詔建立皆公寺」 『魯迅』 p. 155  
山東省博物館蔵本尊 (一尊挙手仏立像) 広饒県楊張寺村. 皆公寺遺址 「爲一切衆生」 台北目No.210  
石刻藝術博物館蔵台座 (通高346cm) 「比丘僧緒、僧援、惠儁…」 筆者調査 2013年  
孝昌3年2月15日 (527) 本尊高220cm 石灰岩
- 19 法義兄弟一百餘人 石窟彫刊靈像 於歴山之陰 (齊州) 「上為帝主★法界群生師僧父母、  
都維那張神龍・王難生、 (四尊像龕?) (山東済南市) 居家眷属咸同福慶、所願如是」 北図拓V-65  
(黄石崖石窟) (龕高75×幅85cm) 岡田健「黄石崖」 台北目No.208  
孝昌3年7月10日 (527) 比丘5：法義男性名7 (←法義百余人と合致せず)
- 20 流泉寺比丘僧慶 (残石立像) (青州) 「為亡母未亡妹現存父継母及  
(挙手仏立像) (臨朐県明道寺址出土) 利慶身弟等、居家大小、願  
孝昌3年7月20日 (527) (残高34×幅23cm) 生々世々永離三塗、師僧…」 『文物』 2002-9  
『臨朐造像』 No.2  
筆者調査 2010年
- 21 尼曇密等邑義 如来石像 青州齊郡臨淄県 「邑義六十人等、合率捨珍、尊□  
(別称：張淡造像碑) (一光三尊挙手仏立像) (旧在：広饒県張氏淡村) 三寶、…欲洪扇慈風、廣濟群品、  
青州市博物館蔵 (通高254cm) 普矜等滋…」 『魯迅』 p. 159  
孝昌3年8月13日 (527) (比丘尼12人、比丘0、供養者133の大半90余が女性供養者名) 北図拓V-66  
『文物』 1996-12  
筆者調査 2011-13
- 22 劉平周等 (尊像不明) (旧在郟城県署=徐州) (願文部分欠損) 『魯迅』 p. 149  
(=假宣威將軍統軍) (將軍号の人名羅列：□□別將持節齊州太原郡…) (齊州太原郡→済南市の西南西50km) 台北目No.207  
孝昌3年□月 (527) 郟城軍主…統軍劉康奴など劉氏4。燕郡太守房超群など房氏6 ⇒ 赴任先の郟城県での造像。 淑徳大学拓本

- 23 鹿光熊 弥勒尊仏 青州齊郡臨淄県 〔上為皇帝陛下★師僧父母、居家  
（一光三尊仏立像） （山東益都） 眷属、一切衆生、咸同斯福〕 『魯迅』 p. 163  
孝昌 4 年正月 5 日（528）（拓本通高 52.5 cm） （旧在山東金石保存所） 台北目No.216
- 24 佛弟子陳天寶 造塔三級. 建石像. 光趺 齊都、中練里私宅（青州） 〔所患雲消、有願従心、上及  
（台座のみ残） 七世父母、下暨現在眷属、  
（拓本高 18×幅 43 cm） （刻字上級） 值佛聞法、朗悟正覺、  
武泰元年 4 月 8 日（528） 「揚州丹楊郡溧陽縣」より「齊都」に移住。 輪樂兜率、恒与善會〕 北図拓 V-81  
『魯迅』 p. 165。
- 25 長安人王僧歆 尊像 （黄石崖石窟）（齊州） 〔上願皇祚永隆☆歴劫師僧、七世  
（山東済南市） 父母、兄弟姉妹、妻子女等、及  
（銘記は孝昌 3 年法義兄弟の後に接す） 善友知識、邊地衆生、常生佛國  
建義元年 5 月 4 日（528） 清信士佛弟子雍州長安人→ 齊州に移住？ 弥勒出世、龍華三會、願登初首〕 『魯迅』 p. 167  
岡田健「黄石崖」  
碑刻校注 VI-0752
- 26 比丘□□道勇 弥勒龍華四面尊像 青州齊郡臨淄県楊□寺 〔上為皇帝陛下★復為亡父母七世  
（形相不明） 供養者名 = 范遠之 因縁居家眷属、願登果者…、願  
建義元年 6 月 15 日（528） 生生世々□□佛會、并為…輪廻…〕 大村 p. 239  
旬齋藏七  
台北目No.220
- 27 清信女韓小華 弥勒像 （青州市龍興寺址出土） 〔為亡夫・両亡息・己身・息…〕 『山東省石仏展』 No.1  
亡夫：樂醜兒 （三尊挙手仏立像） 〔願使過度悪世、後生々尊貴、  
青州市博物館藏 （高 56×幅 51 cm） 世々侍佛〕 『碑刻造像』 p. 390  
永安 2 年 2 月 4 日（529） 『李森著』 p. 51; 図 21
- 28 帛□道歸夫妻 （三尊挙手仏立像） （臨朐県明道寺旧址出土）（青州） 〔夫妻二人知世非常无以□□…〕 『文物』 2002-9  
永安 2 年 2 月 19 日（529）（残高 24 cm） （左半部欠損） 〔上為□□□…亡父母…〕 『臨朐造像』 No.3



- 29 李文遷等一族 天宮像？ 青州樂陵郡陽信縣人 「…家口天宮」「…現身天宮」 北函拓V-130  
 (所在不明) (形相不明) (拓本高 73 cm) 「夏侯興…現身天宮」「命過夏侯旦」 八瓊室十六  
 像主李文遷・夫人蔣男英 李僧保＝ 青州刺史彭城王府鎮遠將軍、行樂陵太守、夫人謝氏、次夫人□□。  
 永安 2 年 11 月 14 日 (529) 李處真＝ 振威將軍樂陵太守。
- 30 賈淑姿 石像 (青州龍興寺址出土) 「願永絕女刑、為佛弟子。 『文物』 2000-5  
 (一光三尊舉手伋立像) 居家眷屬并及六道、長辭苦海、 『李森著』 函 10  
 (通高 54.5 cm) 同獲常樂』 『李森著』 函 112  
 永安 3 年 5 月 13 日 (530) 夫：崔和 ＝ 安東將軍・銀青光祿大夫・青州大中正。(東清河崔氏＋益都賈氏？＝名門夫妻)
- 31 比丘惠輔等 彌勒尊像二軀 青州齊郡臨淄縣高柳村 「上為皇帝陛下★州郡令長、又為 『魯迅』 p. 175。  
 比丘僧□・僧詳・惠彌 (形相不明) (山東省益都石佛庄出土) 七世父母居家眷屬亡過現存、普為 台北目No.228  
 法義兄弟姊妹百十人 (拓本高 125×114 cm) 法界倉生、咸同斯福、所願如是。」 北函拓V-194  
 比丘 4・尼 7・維那 2 (李槃・李元伯)・女性 3。  
 永安 3 年 8 月 9 日 (530) (供養者＝李氏 72、殷 19、鄧 5、羊 3、張 3、宋 3 …)
- 32 諸縣人郊□…姊妹 石像 (半壞) 諸縣人(東莞郡諸縣)＝南青州 「上為亡父□…家眷屬、 『文物』 2002-9  
 (一光三尊舉手伋立像) (臨朐縣明道寺址出土＝青州) 造…願從心、值……」 『臨朐造像』 No.7  
 普泰元年 4 月 24 日 (531) (殘高 28×19 cm)
- 33 比丘尼惠照 彌勒一軀 (下半分欠損) (青州) 「上為皇帝陛下★師僧父母、亡者 『文物』 2000-5  
 (一光三尊舉手伋立像) (青州龍興寺址出土) 直生西方無量壽國、現存眷屬、 『李森著』 函 12;22  
 太昌元年 9 月 8 日 (532) (殘高 51 cm) 常與善俱、自願己身、生々世々、  
 常作淨行沙門、一切衆生、咸同斯慶。」

王膜世	陰想
王天愛	王驥 趙客生
王貳	王景哲
王德寶寺主	王婆羅
張睹宗□	廷寄香
王宗	女□素姜
王文達	女人耿驤？
王蓋	
王興周	

⑧ 供養者名の配列に凹凸があるのは、刻字の現状に従う

(30) 賈淑姿(崔和妻)造像記

北魏永安三年(五三〇)

青州龍興寺遺址出土 青州市博物館藏

一光二尊举手仏立像 通高54.5cm 石灰石

李森著『青州龍興寺歴史与窖藏佛教造像研究』(2012)

【光背背面】

写真＝図112 拓本＝図10 移録＝p.51

大魏永安三年庚戌五月乙亥朔十三日丁亥安東將軍銀青光祿大夫青州大中正崔和妻賈淑姿傾竭賄□敬造石像一軀願永絶女刑為佛弟子居家眷属并及六道長辟苦海同獲常樂

【台座正面】

大魏孝昌二年  
 歲次庚午  
 青州樂陵  
 郡陽信縣法儀  
 六十餘人造弥  
 勒像一軀為皇  
 帝陛下七世  
 父母一切衆生  
 普同其願  
 王和之侍佛  
 像主王敬賓  
 維那王賜  
 維那王貳周  
 王伏 王零  
 王壞珎  
 王見愜  
 石主  
 王婢  
 長世  
 王蠻石界？

【台座右側】

比丘僧惠  
 比丘尼惠凝？  
 比丘尼曇喻  
 高僧平  
 夏侯副  
 張市德  
 王虎 王盖世  
 王起仙  
 王僧育  
 王伯仙  
 王衆愛？  
 王景·  
 王承仙  
 王仙  
 劉憐 李道起  
 周僧貴 張承  
 王伯達 王承仙  
 王羣生  
 劉惠明  
 劉租

【台座背面】

· · · 王審  
 女人口云好  
 女人王温姜  
 女人王兒女  
 女人張思·  
 女人王法敬  
 (アキ)  
 (アキ)  
 王僧恩  
 王顯然  
 榮引  
 王叔憐？  
 張仙  
 王陸  
 王景暈  
 宋僧超  
 王奉叔  
 王苟生  
 王盖奴

【台座右側】

王貴  
 榮養  
 王平奴  
 王天  
 王普慶  
 石零業  
 周虎  
 孫可奴  
 王法翫

(13) 王世和等法義造像記

旧在…山東省博興縣店子鎮般若寺村般若寺遺址

北魏正光六年（五二五）

博興縣文管所藏。殘高240cm 幅70cm 厚80cm

「文物」一九五八年第四期 柱石狀 一尊拳手仏立像

『碑刻造像』三八七頁。

筆者調查（二〇一一）

【左側】

大魏正光六年歲次

乙巳六月甲戌朔□

五日戊子青州樂安

□般縣王世和□文

□王□王伏會等法

義兄弟□心敬造尊

像一軀上為

皇帝陛下□官伺牧

又為過□□來現在

父母師僧□家眷屬

復為法界□生蠕動

之□□□□福

(14) 王敬賓等法義六十餘人造像記

山東省博興縣文管所藏 殘造像台座

北魏孝昌二年（五二六）

博興縣龍華寺遺址出土。

筆者調查二〇一〇年

(2) 崔勲等法義造像記

北魏神龜二年(五一九)

故宮博物院藏 殘高45cm 幅56.4cm 厚23cm

李靜杰編著『石佛選粹』圖64 写真(正面) 石灰岩

毛遠明校注『漢魏六朝碑刻校注』第五冊三五頁(移錄)

【台座正面】

魏員外散騎常侍中堅將

軍三公郎中中散大夫高

陽王右司徒府右長史

崔鴻 平西府益州

長流參軍盪寇將軍齊

州別駕司徒府城局參軍

東中郎九州二郡賈板墓

使徐州倉曹參軍崔鸞

齊州錄事參軍廣川

太守崔鷗

唯大魏神龜二年歲次巳

亥九月戊□朔十一日辛巳

齊州東清河郡兪縣人崔

勲削減身資造石像一

軀二侍菩薩上為皇帝陛

下三公主司後為居家眷

屬咸同斯福

像主崔勲用錢九千

【台座左側?】

法儀兄弟廿五人各錢一百裁佛金色 陳安生

賀孟奴 馬文智 焦伯奴 史曇貞 臯市 仇猛略

仇僧利 王曇玉 徐敬□ 侯巨當 孫文 徐惠愛

翟敵 魏繼叔 王智通 仇迷 仇強 榮文敬 賀僧德

□主崔勲 法儀主賀神達 史僧度 王冰 王文 展次稍